

「景観の時系列的研究」作業班 公開研究会報告

2006年10月13日 於COE共同研究室

## 韓国の多島海を写した「澁澤写真」について

田 鳳熙（ソウル大学校工科大学建築学科 副教授） JEON Bong Hee

本作業班の富井正憲先生の御紹介によりソウル大学から田鳳熙先生をお招きして研究会を行った。田先生には研究会当日の午前中に「澁澤写真」を見ていただき、午後、それにもとづいての、また韓国での写真資料の保存状況の紹介などを盛り込んでの御報告をお願いした。その記録のとりまとめは神奈川大学建築学科在籍の大学院生、千葉神奈子が行ったが、その分量は極めて多く、ここではその一部を香月洋一郎が抄出して研究会の一端を紹介することにした。

### 澁澤敬三と澁澤写真について

- ・午前中見た写真（150～200枚）のうち85%は多島海のものだったが、蔚山の全般的な調査の写真もあった。
- ・これはいろいろな人たちが参加して調査を行ったようで、京城帝国大学の学生たちと医師も連れていっている。「澁澤写真」の陳列物の写真はソウル大にもある。このことから、澁澤は陳列館を訪れたと思われる。
- ・多島海の覚え書きは秋葉隆先生（京城帝国大、巫俗：シャーマニズムを研究、東京帝国大発表「朝鮮の巫俗に関する研究」）が書いているところもある。秋葉は澁澤とつながりがある。秋葉は1930年後半～1940年前半にかけて韓国全羅道農村地区の調査をしている。なお、多島海という言葉は、現在使われている意味と韓国で使われている意味（南海を指す）とでは異なっている。

### 韓国の今の状態について

- ・神奈川大でも研究されている非文字資料の体系化については、韓国でも関心をもたれている。
- ・韓国では画像資料の記録物の所蔵は1910年を基点として分かれている。1905年から日本の支配が始まったが、1910年までは大韓帝国の時代であった。1910年を始点として資料保存の変化がはじまった。公式的な記録は、1910年までのものは奎章閣（ソウル大）に、1910年からのものは総督府に保管されていた。
- ・現在1910年以降で王室関係のものは、蔵書閣（韓国学中央研究院）に保管されている。朝鮮総督府の持っていたものは、現在国家記録院が持っている。近代の資料は、総督府図書館から韓国中央図書館へ、京城府図書館からソウル市立南山図書館へと移された。
- ・私（田）は2000年～2003年まで国家記録院（政府記録保存所）の建築図面をアーカイブ化するプロジェクトに参加していた。国家記録院には22,000枚くらいの図面があった。このうちの95%は1925年以降に撮影されたもの。1910年～1925年の図面は殆どない。1910年以前のは奎章閣にある。また、2005年～2006年にはソウル大奎章閣の図面をアーカイブ化するプロジェクトにも参加していた。奎章閣には近代式の図面、180枚くらいがあった。その殆どは非公開。見ることはできるが、学者が興味を持って研究することはなかった。
- ・1910年～1925年の建築図面はない。この理由はいくつか推測することが出来るが、国家記録院には保存期限があることから、その保存期限を過ぎたことが図面のない理由としてあげられる。1925年までに作られたものは1945年より前のある時期に期限がきて捨てられた。1945年に開放されて、そのときに保存期限内だったものは総督府に記録として残っている。1945年以後のものは旧文書として記録保存所に保存期限なしで倉庫に保管されている。
- ・こうした点に関心が高まったのは、1995年に金泳三大統領が総督府の建物を壊したことがきっかけとなっている。そのとき朝鮮総督府から図面が見つかった。

### 写真のこと

- ・韓国では1900年からの写真資料が存在しており、およそ9分野の写真アーカイブが公開されている。
- ・現在ソウル大では1302点のガラス原板が公開されている。2002年7月～2003年6月にその整理事業が行なわれた。2006年6月に最終報告書を出し、本年末には図版書を出版予定である。（配布レジュメの資料は2004年4月～6月にソウル大博物館での展覧会の時のもの。展覧会タイトルは「彼らの視点から見た近代」（オリエンタリズム））
- ・ガラス原板には秋葉隆、赤松智城が関係したと思われる。共に民俗学、宗教学の研究者である。そのため、民俗学の分野のものが多い。これは澁澤フィルムに似ている。ソウル大には大谷光瑞と関係したのものもある。大谷探検隊が持ってきた壁画も中央博物館にある。ガラス原板は民族文化のものが450枚、遺蹟のものが213枚、満州・蒙古（満州地域）のものが115枚ある。満州地域は京城大学の先生が調査している。